令和４年度　会派調査研究報告書

（視察先１箇所につき１枚）

会　　派　　名	公明党
事　　業　　名	先進地視察　　岐阜県　可児市　ばら教室ＫＡＮＩ
事　業　区　分	①　研究研修　　②調査

１　上田市での課題と研修・調査の目的

上田市の重要な課題である外国籍及び外国にゆかりのある児童生徒の初期日本語教育、就学指導について、プレクラス（通常学級に入る前に日本語の基礎や基本的な習慣を学ぶ教室）を約20年市で運営し、国内でもモデルとなっている可児市の取り組みを視察することで、当市に活かしたい。

２　実施概要

実施日時	視察先	岐阜県可児市
令和５年２月１日（水）14;00～16:00	担当部局	可児市教育委員会学校教育課ばら教室KANI

報告内容

１　市の概要

人口：100, 314人、世帯数：43,138世帯、面積は87.57㎢。昭和57年4月1日より市制施行可児市となり、平成17年5月飛び地の兼山町が合併し、令和4年4月1日、市政40周年を迎えた。

２　市の特徴

県庁所在地岐阜市、名古屋市から30㎞県内に位置し、昭和40年～50年代の高度成長期、丘陵地の住宅団地開発により急速に人口が増加。県下最大級の工業団地、製造品出荷額は県内上位を占める。

2019年に岐阜医療科学大学キャンパスが新設された。

３　視察事項

「ばら教室KANI」の取り組み

可児市の外国籍市民の人口は7,800人(7.8%)を占める。

１、開設の背景：

平成17年(2005年)ばら教室KANI開室。

可児市で働く外国人が増加→就学年齢の外国籍児童生徒の増加。更に就学義務がないことで不就学が増加。不就学調査(平成15年16年)で不就学と不明が市内で100名を超えることから、「外国人児童生徒の学習保障事業」をスタート。

令和2年(2020年8月31日第2ばら教室KANI開室(広陵中学内)。

日本の公立小中学校への就学を希望する外国人児童生徒に入学・転入する学校に在籍したまま初期日本語、日本習慣などを集中的に学ぶ教室(プレスクール、プレクラス)として設置。

令和4年12月末現在　968人が修了。

２、取り組みの内容

①職員構成：市費職員11名、県費1名　計12名

第1ばら教室　室長（第2兼務）

外国籍児童生徒コーディネーター1名、学習指導員(日本人1名ブラジル人2名フィリピン人2名)

第2ばら教室

外国籍児童生徒コーディネーター1名、学習指導員(日本人1名ブラジル人2名フィリピン人1名)

②指導内容

学校の学習・生活上の約束やルール、初期的な日本語（小学校１年生程度の漢字、国語教科書）
学年相当の算数・数学の「数と計算」領域を５か月かけて学ぶ。
③第１ばら教室では、初期日本語指導を来日直後から２週間、２週間から１か月、１か月から２か月、２か月から３か月の４段階のクラスに分け３日月間
第２ばら教室は、漢字、動詞、助詞について４か月・５か月学び、その間、通学する学校クラスへお試し体験を行う。通学予定のクラスには既に机、下駄箱に本人の名前が貼ってある。
また、公立中学校内に教室があることで、日本人の生徒がいる環境で学習する。

３、成果と課題

①令和５年度から、かつてばら教室で学んだ方が学習指導員となり、児童生徒のロールモデルとなっている。
②実践を通して、指導する側が子どもたちから、以下のことを学ぶ。
安心感「自分はここにいていいんだ」
自信と覚悟　あきらめない心、学校へ行く、日本で生きる
友だちは宝物「国籍・言葉が違っても友だち」
③課題
初期日本語指導と教科学習の壁　思考力を育てること・母国力との関係
ロールモデルとアイデンティティ　日本で夢を持つ、自分に誇りを　高校等へ進学・退学
散在地域のサポート

４、感想

家庭と教室を繋ぐ外国籍児童生徒コーディネーターの対応がきめ細やかであり、通級後の相談などにも学習指導員も含め対応されている。
母国でしばらく離れて暮らしてきた子どもたちを呼び、家族で一緒に異国の地で生活を始めた学齢期の子どもに対して教科学習を通じて日本語を習得させることは別のサポートがない限り不可能に近い、可児市の取り組みが20年近く続いており、この地で暮らためにに外国籍の方々の希望の教室になっていることを現地の授業を参観して改めて実感した。

５、上田市に活かす

県内でも外国籍市民の数が一番多い（人口比においても）上田市において、学校現場から聞こえる日本語指導と教科指導の苦慮（ちがう）、学校が児童生徒のより処になるには大変多大な課題がある現状について、１０年来からの教育委員会の認識は改めるべきである。一定期間の初期日本語習得ができる教室（プレクラス）の充実をはかるべきであり、現在の東小学校虹のかけはしが担うのなら、その機能が発揮できる状況にすべきである。ボランティア等とその場しのぎの対応を続けていること自体、当市教育委員会に不信感を感じざる得ないので、改革がなされるよう今後も様々な機会で提案を続け「プレスクール・プレクラス」として機能する教室の設置を実現したい。

＊　視察先の写真等がある場合は添付のこと